

# まちづくりビジョン策定委員会（第11回）会議録

■ 日 時：平成26年6月6日（金）午後2時30分～午後5時30分

■ 場 所：みなかみ町観光センター 2階 第1会議室

■ 出席者：

①まちづくりビジョン策定委員会（11／13名）

小林 洋、小野 章一、河合 生博、鈴木 和雄、津久井 功、持谷 美奈子、  
中島 エリ、金子 崇範、高橋 直也、本多 圭仁、鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（3／3名）

まちづくり交流課長 宮崎 育雄、商工振興GL 小池 俊弘、主査 大川 志向

■ 配布資料

資料1 まちづくりビジョン中間報告会アンケート集計結果

■ 会議内容

---

## 1 開会

## 2 議事

(1) 中間報告会の結果について

○ 中間報告会アンケート集計結果について、事務局より報告する。

- ・ 中間報告会に162名（受付簿による）の方が参加し、73名の方が回答
- ・ ビジョン策定の必要性については、97.2%の方が必要だと感じており、ユネスコエコパークの登録についても、94.3%の方が推進すべきと回答
- ・ ただし、今回は興味のある方が主に回答してくれていると考えられるので、今回の結果だけで全ての方が賛同してくれているとは言い切れない。
- ・ 町民の合意を形成する必要があるとあって、今後なるべく多くの方を巻き込んでいって、毎年同じ質問で意識の変化を定点観測する必要がある。

○ 中間報告会を受けての商工会会員等からの意見について紹介する。

- ・ 新治地区にはユネスコエコパーク認定を推進しているチームがあるので、一緒に話し合ってもよいのではないか。
- ・ 谷川岳が認定を受けた「ミュラン・グリーンガイド」などを、もっとPRに生かした方がよいのではないか。認定されたのに知らない人が多い。
- ・ ユネスコエコパーク認定において里山整備が重要なのはわかるが、中心は観光農業ではないか。
- ・ 観光業における客数の減少を景気や役場、観光協会の責任にしている人もいるが、変わるべきは事業者なのではないか。

(2) ユネスコエコパーク認定の推進について

- ・今後のユネスコエコパーク認定については、事務局や推進室（設立予定）を中心に推進し、その進捗を本委員会に報告することとする。具体的には、町内の合意形成、町内外の利害関係者の巻き込み、幹となるストーリーづくり（他地域との差別化）、エリアのゾーニング、申請書の作成、報道発表など。
- ・報道発表や合意形成は戦略的に行う必要があつて、行動計画は推進室で検討する。また、推進室内には専門家などを委員とした準備会を設置し、エリアのゾーニングや申請書の作成などを行う。
- ・本町の一番の特徴は首都圏の水瓶であるということで、森林からの恵みである「水」をテーマにしたストーリーとしたらどうか。東京の水道水源の約8割を利根川・荒川水系で賄っているし、その最初の1滴が本町から始まる。また、ダムがあることで流域に住む人の安心安全は守られているし、ダムがあつて本町も発展してきた。

(3) 今後の委員会の進め方について

- ・実行案については各分野で少人数の部会（委員で構成）を設置し、必要に応じて利害関係者を交えて素案を作成する。また、部会はある程度定例で隔週の委員会とは別に時間を設けて開催し、議論されたことを次回の委員会で報告する。
- ・部会では具体的な行動計画を策定するのではなく、戦略を検討し考え方を提案すればよい。実際に行動計画を策定するのは、ビジョン策定後の実行部隊である。

○ 各部会メンバーと初回の会議日程を以下のとおり決定する。

①観光部会（17日19：00～、観光センター）

小林、津久井、木村、持谷、中島、渡辺、金子

②農林業部会（9日19：00～、観光センター）

河合、小野、金子、高橋、本多

③健康・福祉部会

鈴木、鬼頭、河合、小野

- ・その他、エネルギーや里山整備については委員会に付議し、行政の人材育成については鬼頭、平松で検討する。利根商業高等学校に関しては組合の教育委員会で議論する。

○ 各分野に関する議論の内容

■ 観光

- ・観光課や観光協会、旅館組合など観光に関する組織が細分化されてしまっている。予算や人員が分散していて効率が悪かったり、それぞれの組織の役割が明確になっていなかったりするので、組織のあり方を検討し提言してはどうか。
- ・みなかみ18湯を18もの選択肢があると捉え、滞在型の新しい商品開発を開発するなど本町の特性を活かした観光振興策を提案したい。その解決策を本委員会は求められている。
- ・観光の戦略として、サッカー場を整備した東京オリンピックのキャンプ地やフットパスコースを整備した大会の誘致などを検討したい。

■ エネルギー

- ・エネルギーに関しては、技術や制度が日進月歩であるので、委員会内で具体的な議論を行うにしても、最新の状況を調査研究したり、専門家の力を借りたりしなければならない。
- ・本町の特性を活かすとすれば、木材や温泉エネルギーの活用を検討したい。

■ 里山整備

- 岡山県西粟倉村100年の森林構想や高知県土佐の森方式について、ホームページにより確認する。
  - ・西粟倉村では、50年もの間受け継がれてきた森林を適切に管理・有効活用しながら100年の森林に育て上げていくという発想で森林を管理している。役場が森林所有者から森林を預かり、村の予算で効率的に森林の間伐、作業道整備を行っている。
  - ・土佐の森では、簡単に林地残材を集積・搬出することができる設備も開発したり、残材の搬出に商品券を発行する仕組みを考案したりして、副業的な林業従事者を増やすことで林業再生を目指している。

■ 人づくり

- ・行政の人材にプロフェッショナルを育成したい。職員の採用要件として、一部に英語を必須としたり、大学や企業と組んで人材を引っ張ったりしてもよい。その間に内部人材を育成すればよい。

■ 農業

- ・友好関係にある台南市でもリンゴに対する需要は高い。作る前に売れる話であって条件は悪くないので、独自の生産法人を設立し、耕作放棄地を活用して圃場を整備すればよいのではないか。
- ・全国リンゴ研究大会が平成29年に町内で開催される。エコパーク認定と時期も重なり、本町を売り出すチャンスとなるのではないか。

3 次回委員会の開催について

- 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。  
日時：6月20日（金） 午後2時30分から  
場所：観光センター 2階 第1会議室

4 閉会